

専門技術を生かして東京で起業 郷里秋田に戻り事業を続行する

身の回りにある多くのものが複雑な電子回路や電子部品で構成されている。そこには電子回路を設計する技術者も介在する。秋田出身の技術者が地元に戻り、設計技術を生かす仕事をしている。

拠点を秋田に移し東京での仕事を継続

潟上市昭和で「進藤電気設計」という名の工房を持つ進藤正彦さんは電子回路設計のエンジニア。大手電器メーカーに勤務したのち、2010年に東京で独立起業。子どもの誕生を機に2013年9月、生活と事業の拠点を実家のある潟上市に移した。

企業や大学の研究室などから依頼を受けて新しい装置や製品のための電子回路を設計する仕事と、自社オリジナルブランドの照明機器の開発製造販売を主体としている。電子回路設計は、実際に基板に組んだものを試作したり、50個から100個程度の小ロットの生産をOEMで請け負ったりしている。

試作品づくりで加工会社の協力を得る

現在、自社企画で実用性とデザイン性を兼ね備えた小型懐中電灯の試作をしているが、この過程でアルミパイプにネジを切る工程が発生した。進藤さんは、あきた産業デザイン支援センターに加工を引き受けてくれる事業者の紹介を依頼し、近くの製造業者の協力を得られ、開発を一歩先に進めることが出来た。この一通りの取り組みをUstream配信してい



進藤電気設計

〒018-1401
秋田県潟上市昭和久保字町後79-7
Tel. / Fax. 018-877-5303
<http://shindo-ds.com/>
E-mail contact@shindo-ds.com

る点も面白い。

また、進藤さんが基本設計を行い、福岡の木製家具メーカーとのコラボレーションで生まれたLED間接照明は、木の表面に触れるだけで調光ができるという、ユニークで上質感のある製品。2010年度のグッドデザイン賞も受賞している。こちらは進藤電気設計で運営するウェブサイト (<http://twodo.jp/>) や全国の家具店、インテリアショップなどで買い求めることが出来る。

ショールームでワークショップも

商店の空き店舗を改装した現在の工房は、2階が進藤さんの作業場になっていて、1階は近い将来、喫茶店兼ショールームにする予定。東京時代には子どもを対象にしたワークショップを開いていた経験もあり、ここでもハンダ付け体験が出来るようなプログラムを用意したいと言う。ポトルキープならぬ基板キープも検討中とか。現在は東京時代からの顧客がほとんどだが、秋田でも企業、個人を問わずものづくりの相談に乗っていききたいとのこと。



- 1 ロンドン在住の日本人アーティストの依頼で制作したアート作品。ロンドン地下鉄の路線図を基板回路にしたラジオ。
- 2 進藤さんが企画開発したLED間接照明は、木に触れるだけで調光が出来る。
- 3 工房の1階は近い将来、喫茶店兼ショールームにする予定。
- 4 メーカー勤務時代から独立起業を視野に入れていたという進藤正彦さん。工房2階の作業場は実験室のようだ。

あきた産業デザイン支援センター事業

事業の解説

伝統的工芸品をはじめとする県内製造業を対象に、産業デザイン・製品開発・マーケティング等について専門的な助言を行います。また、「あきた産業デザイン協議会」と連携し、県内企業への産業デザインの導入を促進します。

【制度の利用・お問い合わせについて】

あきた企業活性化センター／あきた産業デザイン支援センターまで。